

平成30年度に取り組んだ主な事業

市では、令和2年度を目標年次とする「後期基本計画」に基づき、さまざまな施策を展開しています。平成30年度は、下記の5つの柱を掲げ、各分野で取り組みを実施してきました。その主な事業についてお知らせします。

5つの柱

3 地域経済の活性化・経済循環の取り組み

●牛久市商工会の運営を助成する 1,891万9千円 担当/環境経済部

市内商工業者の経営改善のための助成をはじめ、商工会の実施するさまざまな事業への支援を行っています。平成30年度は地域活性化の取り組みである「ピザとワインの街うしく事業」のピザフェスタ開催に対する助成も行いました。



平成30年度ピザフェスタの様子

5つの柱

4 観光資源を活用した活性化への取り組み

●住井すゑ記念館を公開活用する 890万2千円 担当/教育委員会

平成29年度に寄附を受けた旧住井すゑ邸について、住井すゑ関連資料等を公開する展示室等を備えた記念館として整備し、郷土の偉人を顕彰するとともに、周辺の歴史・自然・文化・芸術などに触れ合える城中エリアの新たな観光拠点として誘客を図ります。



住井すゑ邸内・抱撲舎

5つの柱

5 再び転入超過の波を呼び込むまちの整備

●エスカード牛久ビルの利活用を図る 4億9,972万7千円 担当/建設部

牛久駅周辺の活性化のため、拠点施設であるエスカード牛久ビルの再生に取り組んでいます。平成30年度に、牛久都市開発への資金貸付を行い、令和元年度は地下駐車場から3階までの旧イズミヤ床を取得し、テナント誘致と併せて公共的利活用の検討に着手しています。



エスカード牛久ビル

●第一幼稚園を建設する 1億6,422万7千円 担当/教育委員会

中根小学校敷地内に併設していた第一幼稚園を移転のため、ひたち野うしく小学校及びひたち野うしく中学校の隣接地に建設しました。

将来的には、幼・小・中が一体となった教育環境を整え、地域の魅力向上につなげていきます。



第一幼稚園

●ひたち野地区に中学校を建設する 5億7,348万円 担当/教育委員会

令和2年4月開校を目指し、新中学校の建設事業を進めています。平成30年度から校舎、体育館、テニスコートなどの建設工事に取りかかっています。



●牛久運動公園武道館を新設する 4億4,162万円 担当/教育委員会

牛久運動公園に武道館を整備しました。さまざまな武道を通して市民のスポーツ振興や生涯スポーツ社会の実現を図るとともに、広域的な避難所としての役割を担う施設として活用します。



牛久運動公園武道館

一般会計歳出合計は
274億3,623万円

平成30年度決算がまとまり、10月に開かれた第2回定例会において認定されました。一般会計では、前年度比で歳入は2.5%増、歳出は3.4%増となりました。 [詳細は次ページ](#)

5つの柱

1 生涯活躍のまちを支える取り組み

●健診(検診)を助成する

1億5,009万6千円 担当/保健福祉部

- ◆生活習慣病健診などを実施する【一般会計】
- ◆胸部・胃・大腸・前立腺の検診を実施する【一般会計】
- ◆特定健康診査・特定保健指導を実施する【国保特会】
- ◆後期高齢者に健康診査を実施する【後期高齢特会】

生活習慣病の予防と早期発見のため、30代健診、特定健診等を受けられる体制(集団健診、医療機関検診)を構築し、検診費用の助成と保健指導を行っています。

●うしく健康プラン21を推進する

104万円 担当/保健福祉部

市民の生活習慣改善プログラムとして実施していた健康チャレンジに、平成30年度よりポイント制を導入。「運動」「食育」「地域のつながり」「忘れないでね健診」の4つの視点から、楽しみながら続けられる健康づくりの取り組みを通して、健康寿命の延伸を目指しています。



健康チャレンジのポスター

5つの柱

2 安心した出産と、子育ての負担を軽減するための取り組み

●医療費を助成する

- ◆医療福祉費支給制度(県と共同)による助成

4億9,090万6千円 担当/保健福祉部

- ◆医療福祉費支給制度(市単独)による助成

8,063万5千円 担当/保健福祉部

妊産婦、小児、母子家庭の母子、父子家庭の父子、重度心身障がい者等に医療費を助成しています。特に市では、妊産婦・小児に対する所得制限を撤廃。さらに小児を高校3年生相当まで拡大し、助成を行っています。



●民間保育園の運営・建設を支援する

- ◆民間保育園の運営支援

17億3,731万8千円 担当/保健福祉部

- ◆民間保育園の建設支援

5,397万1千円 担当/保健福祉部

- ◆認定こども園の建設支援

1億848万6千円 担当/保健福祉部

待機児童の解消、さらなる子育て環境の充実に向け、民間保育園の運営、建設に対する助成を行っています。平成30年度は民間保育園の保育士等処遇改善補助金を新設。また、「せいけい保育園」建設補助、フレンド幼稚園の認定こども園への運営変更に伴う改築を補助しています。

●安心・安全な出産と母子の健康を支援する

- ◆子育て世代包括支援センターを設置し利用者支援事業を実施する

200万円 担当/保健福祉部

- ◆妊産婦と乳児に医療機関検診を実施する

5,859万1千円 担当/保健福祉部

医療機関での妊婦一般健診、乳児一般健診を実施し、安心・安全な出産と、母子の健康管理を支援。平成29年度から産婦健診を開始し、産後ケア等とあわせ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に取り組んでいます。また、平成30年度からは、助産師による訪問型の産後ケアを開始しています。



●予防接種を実施する

1億7,659万7千円 担当/保健福祉部



各種予防接種の実施を通じ、感染症の拡大と重症化を予防しています。予防接種法に定める定期接種に加え、ロタウィルスワクチンなど任意の予防接種への助成を行っていますが、さらに平成30年度からはおたふくかぜについて、2回全額助成へと拡大をしています。

歳出

274億3,600万円

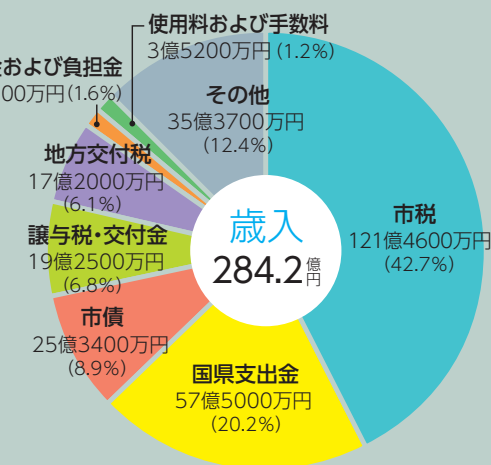
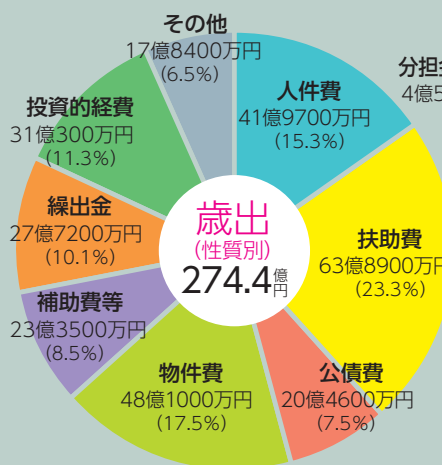
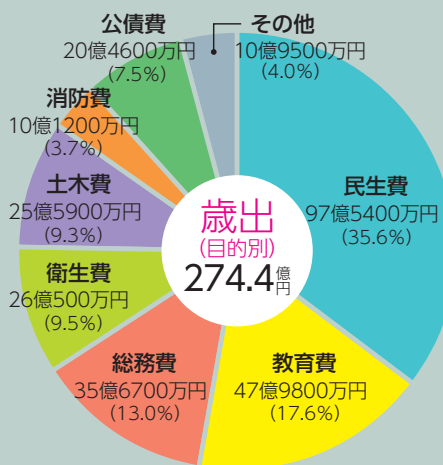
前年度に比べ8億9,500万円、3.4%増加しました。

歳入

284億1,500万円

前年度に比べ6億9,900万円、2.5%増加しました。

平成30年度は、「将来に希望の持てるまち」に重点を置いた事業展開を行いました。その結果、歳入歳出ともに過去最高額での決算となっています。また全国的に減収傾向にある市税については、平成25年度以降6年続けての増額となりました。



市民一人当たりの歳出内訳(一般会計)

市民一人当たりが負担したお金(市税)

142,762円

(昨年度141,296円)

※市税総額÷住基人口(H31.3.31時点)

市民一人当たりに使われたお金

322,491円

(昨年度311,850円)

※歳出総額÷住基人口(H31.3.31時点)

民生費114,652円／教育費56,401円／総務費41,927円

衛生費30,616円／土木費30,080円／消防費11,893円／公債費24,052円

※公債費とは…市債(市の借金)の元金と利子の返済の経費

特別会計

会計名	歳入総額	歳出総額
国民健康保険事業	80億6,000万円	80億6,000万円
公共下水道事業	22億7,800万円	22億4,800万円
青果市場事業	1,500万円	1,500万円
小規模水道事業	0	0
介護保険事業	55億3,200万円	53億2,300万円
工業用地造成事業	0	0
後期高齢者医療事業	16億7,300万円	16億7,300万円

平成30年度その他の主要施策

●防災・防犯・安全のまちづくり

◆交通安全施設を新設する

380万円 担当/市民部

◆防犯灯の新設・管理、防犯カメラを設置する

5,338万4千円 担当/市民部

平成30年度は、カーブミラー21基、路面標示44カ所の設置等を実施。また、小坂団地中央交差点や運動公園北交差点など計8カ所へ街頭防犯カメラを設置しました。

●生活道路の新設と維持

◆道路維持費 3億2,520万8千円 担当/建設部

◆道路新設改良費 1億8,489万4千円 担当/建設部

平成30年度は、橋梁の点検と修繕計画の策定を実施。また、市道23号線整備、狭あい道路(市道213号ほかの道路改良)など、計画的な道路整備を進めています。



●おくのキャンパスで特色ある教育の実施と教育環境の整備

◆おくのキャンパスで特色ある教育活動を推進する

501万3千円 担当/教育委員会

奥野地区の小中学校において、小規模特認校制度の活用を図るなど魅力ある学校づくりを推進。平成30年7月に、奥野小学校と牛久第二中学校は県内市町村立小中学校初のユネスコスクール加盟校として認定されました。



◆中学校施設整備

2億9,222万6千円 担当/教育委員会

平成30年度は、牛久第一中学校体育館の改築、牛久南中学校校舎の大規模改修を実施しました。